

愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集（研究者情報）

氏名	上谷 浩一	専 攻	生物環境学科
		コ ー ス	森林資源学コース
職名	准教授	専門分野	森林生態学、進化遺伝学
メールアドレス	kkamiya@agr.ehime-u.ac.jp	その他連絡先	089-946-9877
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア熱帯林の進化生物学と生態学 ・野生生物の保全遺伝学 		
キーワード	森林生態系、熱帯雨林、樹木、生態学、進化生物学、DNA、分子系統		

研究内容：

・森林に生息する微生物の群集生態学と分子生態学

森林生態系を構成する生物の機能は多種多様です。酵母などの森林微生物は多くが未知であり、生態系での役割もほとんどわかっていません。そこで、私たちは森林生態系における微生物群集を野外観察や DNA 分析によって調べること、それらの多様性や進化について研究しています。

・熱帯雨林生態系における樹木の多種共存機構と創出機構の解明

熱帯雨林にはどうしてたくさんの種が共存できるのでしょうか。例えば、私たちの調査区であるマレーシア・ランビルヒルズ国立公園内のプロットには 1182 種もの樹木が見つかります。この数は日本列島で見つかる樹木数に相当します。こんなに多くの樹木種がどのようなメカニズムで多様化し、また共存しているのでしょうか。私たちはマレーシア、シンガポールやブルネイに設置された長期大規模生態研究サイトを利用して、熱帯林の高い種多様性を説明するための生態学的要因と歴史的要因について研究しています。

・樹木種の起源に関する研究

身近な生物はどこからやってきたのか、生物種の起源と由来を DNA 塩基配列情報から明らかにする研究を行っています。例えば、クスノキは西日本の多くの神社や街路樹として植栽されていますが、そもそもクスノキは日本の在来種であるかどうかわかっていません。私たちは愛媛県内のクスノキの大木の DNA を分析することによって、その起源を探る研究を行っています。

これらの研究を通じて、森林生物の歴史的、生物学的、産業的価値を明らかにします。

提供可能な資源・技術・その他

森林で行うフィールドワークのノウハウ、マレーシア・シンガポール・インドネシアの大学との共同研究、DNA 分析技術、DNA 塩基配列の分子進化的解析手法

プロジェクト研究希望テーマ

上記の資源や技術が役立つテーマであれば何でも大歓迎です！